

ウィズセンター情報誌

2021

vol.77  
総集号

# With



Change & Challenge

チェンジ

チャレンジ



# 男女共同参画推進月間2020

～みんなイキイキ男女がともに輝く“おかやま”～

11月は岡山県男女共同参画推進月間です。記念講演をはじめ、登録団体が企画した講演会や活動パネルの展示、バザーなどが行われ、多くの参加者でにぎわいました。

記念講演 2020年11月28日(土)



演題

## 「日本の男女共同参画は、なぜ歩みが遅いのか？」

講師

やま だ まさ ひろ  
山田 昌弘 さん (中央大学文学部教授)

「パラサイトシングル」「婚活」「格差社会」などの名づけ親で、社会学者の山田さんに男女共同参画の現状や早急に取り組むべき課題についてお話しいただきました。

### 日本の女性活躍の現状

世界経済フォーラムのジェンダーギャップ指数(男女の格差を国別に示す指数)によると、日本は2006年115か国中79位でしたが、2019年は153か国中121位と最低レベルになりました。国会議員に占める女性の割合は約10%、女性大臣は2人。他の国は女性議員が増えているのに、政治分野での女性の進出は世界的にも、かなり遅れています。

日本の労働人口の約44%は女性ですが、女性の管理職は薬剤師など一部の職種を除き一向に増えず、経済分野でも最低レベルです。女性の活用は進んでもパートなど非正規雇用が多く、男性正社員の方が給料・待遇面で優遇される現実があります。法律が変わっても労働慣行や家族意識を変えることは難しく、女性へのさまざまな差別はいまだに解消されていません。日本の男女共同参画は、前進はしているけれど歩みがとても遅いという現状です。

### 歴史的背景

670年頃は男女共同参画の最先端の時代で、女性も朝廷で活躍していました。戦前までの農業社会では女性も高齢者も働き、戦後工業社会になると男性が正社員として安定した収入を得たことで、女性が専業主婦になる家庭が増え、女性が経済的に活躍しなくても豊かな生活ができるようになりました。しかし、1990年頃からは経済の大きな変

化により、男性一人の収入では家計を支えられなくなり、共働きが増えていきました。

### 非正規雇用の広がりが招く経済的格差

共働きであっても、正社員同士の家庭と女性がパートなどの非正規で働く家庭では格差があります。経済的に不安定な家庭や未婚者が増加し、少子化の深刻化、経済の低迷とともに女性の生きにくさや男性へのプレッシャーの増大を招くなど、さまざまな社会問題が現れます。ギリシャ、イタリアなど女性があまり活躍していない国は、経済がひっ迫して財政が厳しく、女性が活躍している国ほど財政が安定しています。女性が働いていけばよいのではなく、女性が活躍、昇進していることが重要です。

### 女性の活躍が未来の日本を救う

女性の活躍は、女性だけの問題ではなく、地域、企業、男性のためでもあります。社会的・文化的に形成された秩序の中で、女性の活用を阻むのではなく、女性が能力を活かして社会の発展のために活躍できるようにしなければなりません。そのためには、待遇改善や雇用慣行の是正、世間体重視の伝統的家族意識の是正、正社員の男性と主婦を標準とする社会保障制度の見直しが必要です。女性の活躍、男女共同参画を進めることが、停滞している日本社会や経済復活の前提条件であり、未来の日本を救うと考えます。



# 登録団体パネル展示

男女共同参画推進月間（11月）の期間中、ウィズセンター内で8つの登録団体が活動紹介のパネルを展示しました。各団体とも写真やイラストを添えるなど工夫をこらした力作で、来館者は足を止めて熱心に見入っていました。

特定非営利活動法人  
岡山家族支援センターみらい



岡山県学童保育連絡協議会



岡山県生活学校連絡協議会



岡山県退職女性  
教職員の会



おかやま女性国際交流会



岡山女性フォーラム



岡山友の会



日野原重明記念  
「新老人の会」岡山



## おしゃれなバザー

主催：特定非営利活動法人さんかくナビ  
共催：あいネット倉敷 11月28日(土)

バザーでは、DV被害者と支援者が一緒になって、生活用品、雑貨、手作り小物などをおしゃれにラッピングして販売しました。毎年楽しみにしてくださる方も多く、今年は手作りマスクも加えて、好評のうちに終了することができました。

バザー用品を提供いただいた方、また、ご来場くださった皆さま、ありがとうございました。



## 男女共同参画推進月間 ウィズセンター登録団体主催事業報告

### 講演会 日野原重明記念「新老人の会」岡山

2020年9月9日(水)

#### 演題 「岡山弁二足の笑路(わらじ)パートII」

講師 中西 勝信さん(岡山県民謡民舞連盟副会長)



講師は薬局経営者であり、岡山県民謡界の第一人者として活躍中の中西さん。筋トレと脳トレで参加者の身心をほぐしながら、講演に入られました。

男女共同参画問題にふれ「男性の家事従事とか、女性の社会進出など徐々に変わりつつあり、女性の強さを感じる場面も増えてきたが、それでも旧態として歩みは遅い」と話されました。また、男女のあり方について話し合った他、「くすり」についても専門的立場でご指導いただき、岡山弁で楽しく問題提起し、唄ったり笑ったりしながら考え学びました。

### 上映会とトーク 紅茶カフェ

2020年11月1日(日)

#### 「きよこのくら」上映会とトーク

～永瀬清子に見る女性の生き方～

トークゲスト 横田 都志子さん(NPO法人永瀬清子生家保存会理事長)



現代詩の母と評された岡山県ゆかりの詩人永瀬清子についてお話しいただきました。「私は詩人になるわ」と自分で自分を決めた清子の生き方や、詩にあふれる「誰もが尊重され何者にも束縛されず、自分の人生を全うできる世の中であってほしい」と願う気持ちを、詩の朗読と共に伝えていただきました。映画「きよこのくら」は、生家を保存するために朽ちていく蔵を解体せざるを得なかった苦悩から作られたそうです。広く永瀬清子を知ってもらうために創設された「永瀬清子現代詩賞」は、今や全国から応募があり毎年詩集が発行されています。最後は永瀬清子ご本人による朗読の貴重な音声までご披露いただきました。

## 令和2年度 岡山県男女共同参画社会づくり表彰

令和2年11月11日(水)に、令和2年度岡山県男女共同参画社会づくり表彰式が県庁で行われました。

この表彰は、県内各地域において、男女共同参画社会づくりに積極的に取り組み、その功績が顕著であると認められ、今後もその活躍が期待される方々を表彰するもので、伊原木知事から個人5名と事業者4団体に、伊藤県民生活部長から個人6名に、表彰状と記念品が授与されました。

### ◆知事表彰

(五十音順・敬称略)

#### 個人の部

(功労者としての役職等)

襟立 喬子 (里庄町) 里庄セミナー～なぎさ～運営委員  
片山 ひとみ (備前市) 備前市男女共同参画推進委員  
塩田 澄子 (岡山市) 岡山市男女共同参画社会推進センター運営委員会委員  
寺井 恵子 (倉敷市) イーブくらしきネットワーク文化部部长  
山下 芳枝 (総社市) 総社市ネットワーク“波”会長

#### 事業者の部

末沢建設株式会社(津山市)  
株式会社仁科百貨店(倉敷市)  
株式会社フジワラテクノアート(岡山市)  
株式会社環光(津山市)

### ◆県民生活部長表彰

(功労者としての役職等)

浅野 聡子 (玉野市) 玉野市女性団体連絡協議会副会長  
高田 美紀子 (岡山市) 岡山市男女共同参画専門委員会委員  
日笠 亜衣 (岡山市) 岡山市男女共同参画専門委員会委員  
内尾 玲 (玉野市) 玉野市女性団体連絡協議会副会長  
萩原 節子 (岡山市) 岡山市女性防火クラブ連絡協議会理事  
山下 明美 (倉敷市) CAPおかやま代表





## パープルリボン運動を知っていますか？

- ◆11月25日は「女性に対する暴力撤廃国際日」です。毎年この日までの2週間（11月12日～25日）を、「女性に対する暴力をなくす運動」の実施期間とし、夫やパートナーからの暴力、性犯罪、売買春・人身取引、セクシュアル・ハラスメント、ストーカー行為等が、女性の人権を侵害する決して許されないものであることを広く呼びかける運動を行っています。
- ◆パープルリボンは、女性に対する暴力根絶のシンボルマークです。「暴力をなくそう」という願いと「ひとりで悩まないで相談を！」のメッセージがこめられています。



県内各地で、パープルライトアップ、パープルリボンツリーの設置、啓発パネル展示など様々な取り組みが行われました。

県立図書館と連携して、パネル・図書館所蔵の関連図書などを展示しました。



岡山県庁1階県民室



旧遷喬尋常小学校校舎(真庭市)



神郷紙の館・水車(新見市)



瀬戸内市



津山市



赤磐市

### 働く女性トータルアシスト事業 女性活躍キャリアアップセミナー特別講演

2020年12月13日(日)

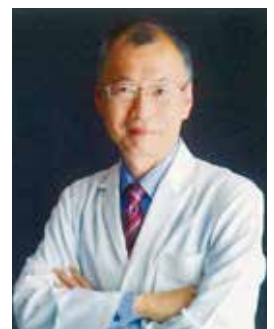
演題 「女性が働きやすい職場は利益が上がる ～男女ともに活躍できる社会のために～」

講師 華房 寛城 さん (医療法人社団華城会 はなふさ歯科医院 理事長)

岡山で最大規模の歯科医院を経営されている華房さんをお招きし、女性の活躍を意識した経営者やスタッフを対象にセミナーを開催しました。

「どうすれば社員に幸せを感じてもらえるか？」幸せになるためには『会社が用意するスキル』と『個人のスキル』の両方が必要だと華房さんからお話がありました。会社は良い社風を作ること。感情は伝染するので、いつも怒っているより、キビキビと動き、楽しい雰囲気を作る方が生産性が上がるはず。社員の夢を会社が共有して応援することも大切。そして社員（個人）は常に夢を明確にして実践すること、自分で考えて行動できるようになることが大切。

人は感情で生きていて、幸せかどうか感情で決めている。理想と現実のズレに悩んでいても、自己評価と他者評価は違う。また、自分が良くないと決めつけているだけで、周りの人は良いと思っていることもある。つまり、感情をコントロールすることで人生をコントロールできる。まずは個人が幸せを感じ、それを会社に広げると企業の業績も上がると教えていただきました。





コロナ禍で生まれやすい『なぜかイライラする』気持ちを解消する方法をお二人の人生経験を盛り込みながら、楽しくお話しいただきました。



**演題** 「これって、DV?! ～家族だから腹が立つ?!～」  
～スカッと解消ぶっちゃけ説法トークショー

**講師** かつら よね ひろ **桂 米裕 さん** (落語家・僧侶)  
なか むら え み **中村 恵美 さん** (フリーアナウンサー・  
アンガーマネジメントファシリテータ)

## 怒りの構造

**中村さん** アンガーは怒り、マネジメントは管理・コントロールですが、怒りを管理し、後悔をしないようにするのがアンガーマネジメントです。怒りの起爆装置は「べき」にとらわれる気持ちにあります。母はこうあるべき、朝ご飯は食べるべき、という「こうするべき」が皆さんの中にありませんか？昔は、男性は稼ぐべきと言われましたが、今は男性も家事・育児をするべきと言われます。時代や人によって「べき」の内容が変わりますが、とらわれすぎない方が気持ちが楽になります。

**桂さん** 「なぜ怒るのか？」他人と自分を比べた時、自分が相手より上に立ちたいから怒るのです。怒っていいのは相手のためを思う時だけです。知恵をつけると怒りは消えます。相手を尊敬していないと、正しいことを言われても腹が立つでしょう。でも、経験や挫折がその人の心の器を広げ、怒りの気持ちがあふれることをコントロールできるのです。

## 喜怒哀楽は自然な感情。本当の思いを伝える

**中村さん** 気持ちを伝える時、喜怒哀楽のどれを使うかで言い方が変わります。子どもにゲーム感覚で「どっちが早く片付けるかな？よーいドン」とワクワク感を伝えると喜んで片付けます。怒りは『相手を傷つけない』『自分を責めない』『物に当たらない』に気をつけて表現しましょう。楽しく伝えられると怒りもおさまります。

**桂さん** 怒っている気持ちの背景、本当の思いを

正しく伝えましょう。家族が無事を伝えるメールを送ってこなかった時、心配でたまりませんでしたが「わたしたちが安心できないから」と気持ちを伝えると、メールは必ず届くようになりました。相手の心に響く言葉を使うことが大切です。



## いろいろな価値観を取り入れて穏やかに生きる

**中村さん** 昔は三世代家族が多く、いろいろな価値観がありました。お父さんに怒られても、おじいちゃんが慰めてくれるなど、怒りがうまく解消されていたと思います。核家族の増えた今は、ご近所さんや友達につらい思いを聞いてもらい、いろんな考え方を取り入れると、もっと生きやすくなると思います。

**桂さん** 歳を重ねていくうちに体力や気力が衰え、自分を保つために怒りっぽくもなりますが「みんなこうなるのよ」と見方を変えるとイライラも変わります。リフレッシュしたり、趣味を持つことも大切ですね。今日の一文字は「楽」です。その本質はリラックスです。穏やかな空間で暮らしていきましょう。

「いつでもチャレンジ～今と未来のため自分のために～」をテーマにフリーアナウンサー、コミュニケーション講師として活躍されている森田さんに、ご自身の体験を交えながら、自分らしさについてお話しいただきました。



## 第一部 演題 『自分らしさって何だろう』～答えはいつも「自分」の中にある

講師 もり た けい こ **森田 恵子 さん** (フリーアナウンサー  
おかやまアナウンス・ラボ(株) 代表取締役)

### 環境の中で刷り込まれた「自分らしさ」

子どもの頃の夢は、バレリーナか宝塚歌劇団。クラシックバレエを続けていた小学5年生の時、「うちでは続けさせられない」と父に言われ、夢は砕かれました。「明るい性格なのだから、他にやりたいことが見つかるよ」と周囲から言われたことで『自分らしさ』を植え付けられたように思います。断念した悔しさをバネにバレーボールに打ち込みました。

### 人生の意味付けを変えた中学時代とアナウンサーになるための目標管理

いじめにあっていた中学時代は絶望の中にいました。ある日ラジオ番組に投稿したはがきを取り上げられパーソナリティーに励まされたことで「この人についていくしかない!」と、ラジオを聴くことが生きがいになりました。それがきっかけでアナウンサーになるという目標につながり、わたしの目標管理が始まったのです。手探りの中、当時できることを必死に取り組みましたが、家庭の事情や反対もあり望む大学を断念し、地元大学へ進学。でもそのことで思いがけないチャンスがあり、入学と同時にラジオ番組のアシスタントになることができたのです。

### 価値観の見直しと真の「自分らしさ」の探求

卒業後は『素材や状況、事象など言葉にできない何かを伝えたい』という価値観を持ちながら、地元の放送局に就職し念願のアナウンサーとして勤務。別会社に移った30代に会った「コーチング」により『自分の言葉は本当に届いているのか。何を大事にして生きるのか』と探求し、やがて『伝えたい気持ちを大事にしなが、誰かの可能性を伸ばすための支援をしたい』と考える自分の気持ちに気づいたのです。

### 一歩踏み出し「自分らしさ」を探求すること

今、大事にしていることは、「すべての人に可能性があると信じ、可能性を眠らせず、つないでいくこと」です。「成長を促す真のコミュニケーションを提供」したいと思っています。『話をじっくり聞くこと』『自分の言葉で伝えること』これが一歩踏み出して見つけた『自分らしさ』です。どんな状況においても「これしかできない」ではなく、新しく整え作り直していくことの大切さを実感し、価値観を見直すこと、自分らしさを探求することは、実はワクワクすることなのだとして一人でも多くの方に伝えていきたいと思っています。



全国的にも数少ない女性マジシャンのお二人にマジックを披露していただきました。また3人でのトークショーでは、挑戦したことやこれだけは伝えたいことなどを語っていただきました。

## 第二部 演題 『私たちの人生はイリュージョン』

講師 もり た けい こ **森田 恵子 さん** **ゆかり さん** **Mayu さん**  
(マジシャン) (マジシャン)

**ゆかりさん** 他の人とは違う仕事をしたいと思っていました。まずは挑戦して自分ができることを増やす。最初からやらないより、とりあえずやってみて、できなかった時の方が後悔は少ないです。日本舞踊を習っているのでマジックに和の良さも取入れたい。『できないとやらないはちがう!!』

**Mayuさん** 『チャンス女神は前髪しかない!』迷っているうちにチャンスは通り過ぎてしまいます。チャンスがあればタックルする勢いで、つかみにいくようにしています。まず行動することが大切。マジック業界に女性は希少で歓迎されていますが、もっと成長が必要。男性のサポートも必要です。

**森田さん** 『いくつになっても成長できる』子どもだけでなく、どんな世代もです。一歩一歩が大切です。『自分らしさって何だろう』答えはいつも「自分」の中にある。これが、わたしの伝えたかったことです。



## 演題 『「心」と「言葉」で繋げる 家庭内交流の極意とは?!』

講師 はやしや う さぶ ろう 林家 卯三郎 さん (落語家・獣医師)

みやけ や え こ 三宅 八重子 さん (フリーアナウンサー・野菜ソムリエプロ)

ダイナマイト・イシムラ さん (ダイナマイト・オフィス 代表)

「コロナ禍での“日常”にどう向きあえばいいの？」

立場の違う3人のトークから、さまざまなヒントをいただきました。

## 仕事と外出自粛期間の過ごし方



卯三郎さん

人前に出るのは苦手でしたが、大勢の人を沸かす落語家にあこがれました。岡山県の家畜保健衛生所で獣医として働いていましたが、10人ほどの小さな会場でお客さんとの会話の駆け引きのすばらしさを知り落語家になる覚悟をしたのが29歳。コロナ禍で芸術は平和じゃないと楽しめないのかとモチベーションが、いつとき下がりましたが、ウォーキングで体力を維持するなど、今できることを見つけてやっています。ユーチューブを勧められますが、汗を流しながら生身の人に向かってしゃべりたいと思っています。

### 三宅さん

仕事は出向く事もありますが、リモートでもしています。二人目の出産を機に3年前から自宅でも仕事ができるようやりくりしたおかげで、子供が家にいながら仕事ができたり、仕事の幅も広がりました。コロナ禍で当たり前が当たり前ではなくなりましたが、良いこともそうでない事もすべて必要な経験だったと思えます。非常事態宣言でお休みになり、日々の忙しさに心ストレスが溜まっていた事に気づいて休養もできましたし、子供たちともじっくり向き合えたので、自分にとって必要なお休みだったと思えます。



ダイナマイトさん

高校で放送部に入ったのは好きなロックを流すためで、元々しゃべりを目指していたわけではありませんでした。ディレクターとしてイベントを作った時、進行に満足できず自分でMCをしたのが、きっかけです。自粛中は仕事のキャンセルが続き、体と精神状態のバランスが崩れて仕事を辞めることも考えましたが、仕事仲間と頻りに連絡を取り合うことで気持ちを落ち着かせています。「ウィズコロナ」言葉では簡単ですが、どうコントロールするか考えます。

## 家族とのかかわり方の極意

### 卯三郎さん

子どもの帰りが遅くヒステリックになったことがあります。実は門限前で心配のあまり沸いた怒りだと気づき、謝りました。家事は女性の仕事と思っていた頃は、してもらって当たり前とっていました。「〇〇がすべき」と決めず、してもらったら「ありがとう」と感謝を伝えることが大切。「妻の脈絡のない長い話にとまどう」という人がいますが、話にオチはいりません。妻の気持ちに寄り添い聞いてあげるだけでいい。人との会話が心の栄養。やさしい顔を相手に向けることが幸せにつながります。

### 三宅さん

自分がゴロゴロしたくても我慢して働いていると、ゴロゴロしている家族を見てイライラします。(笑)  
相手を変えることは難しいですが、イライラするポイントは自分が我慢している所だと気付きます。コロナ禍の中、日々我慢が重なり心が苦しんでいるかもしれません。まずはそんな自分の気持ちを認識して、頑張っている自分を褒めたり、自分にご褒美をあげることで心のバランスを取るのが良いと思います。

### ダイナマイトさん

エンターテインメントの仕事は不安定で、一人家を離れて仕事をした時期もありました。今は妻と二人暮らし。気を遣いながらも、いい塩梅(あんばい)です。掃除、洗濯、家事も率先してやりますが、妻の支えは必要です。大切なのは相手に依存しすぎないこと。感情論でしこりを残さないよう、自分が反省するところがあれば素直に謝り、解決を図っています。一番いいのはお互いの顔を見て話すことです。



流行語大賞「ハニカミ王子」の名づけ親の多賀公人さん。取材や報道の経験から、確かに伝わりあうコミュニケーションの極意をお話いただきました。



## 第一部 演題 『心をつなげて～コミュニケーション～』

講師 た が き み と 多賀 公人 さん (キャスター・プロデューサー)

コミュニケーションとは、心と心を言葉でつなげるものです。言ったつもり、伝えたつもりでのコミュニケーションをしていませんか。しっかりと言葉に出さないと伝わらない時代です。自分の言葉を使って相手の腹に落ちるまで念を押して自分を主張することが必要です。しかし、いくら主張しても相手が共感しなければ伝わりません。高い場所、俯瞰で見る感覚で相手の立場に立ち、相手になったつもりで考え、発する言葉は、相手に共感される言葉となります。共感されれば、相手の心を打つのです。

言葉は、赤ちゃんをあやすときに発した声が始まりとされています。本来、言葉は相手を慰め、癒やすために生まれたのです。言葉は受け取る側の成長の励みとなり、言葉を出す側にも心身の活性化、発散の利益となります。心に残るコミュニケーションは、本音で話し合い、発散し合い、ありのままの姿を見せ合うものです。ともに一致して心に寄り添う会話をしていきましょう。



全国各地の災害現場で支援活動を行う村上さんと多賀さんのトークショーで、災害に備えて今すぐできることなど、わかりやすくお話いただきました。

## 第二部 「防災士と考えよう里庄町の災防」 トークショー

むら かみ こう し 村上 浩司 さん (防災士) た が き み と 多賀 公人 さん



困った人を助けたい。心を復興して一人でも多くの方の笑顔を取り戻すことが活動の原点です。私が伝えたいこと、①「備蓄の見える化」です。日頃から各家庭で備えている非常食を使いながら補填することを習慣にしましょう。眼鏡や薬など自分しか使えないものは自分で備えてください。②ハザードマップを道具として避難などに活用しましょう。③報道される方は、困っている人のために必要な情報を届けてください。④防災・復興には女性の力が絶対必要です。女性の意見、行動が避難所運営をスムーズにします。

地域力は防災力です。日頃から、いざというとき何ができるか家族や地域の中で話し合うことが大切です。

## ウィズカレッジ企画講座を終えて

今年度、全ての講座において司会を行っていただきました森本真帆さんに、全講座を振り返っての感想をいただきました。

以前から「男女共同参画」という言葉は知っていましたが、普段の生活の中で、特にそれを意識して行動するといったことはありませんでした。

この度、ウィズカレッジの司会という立場から、ワークライフバランスや女性のチャレンジ支援、DV対策等、それぞれのテーマに沿って展開される講演を聞くことができました。

講師の方々が、それぞれの個性や考えをぶつけ合い、まとめ上げ、化学反応で素晴らしいトークができあがっていく。それを傍らで感じる事ができ、とても貴重な体験となりました。

またそれぞれの講演を聞いている中で、以前よりも男女問わず仕事の選択肢が広がったことに改めて気付くなど、「男女共同参画」というのは私たちの日常生活に密接に関わっていることを実感しました。

今、コロナ禍で社会全体が大変な状況です。年齢や性別などにかかわらず、一人一人が思いやりと想像力を持って行動し、心穏やかな世界になってほしいと、切に願います。





DV被害者の心理やSOSの兆候を知ることが、支援の第一歩です。DVやデートDV（ストーカー）の防止教育やDV加害者教育プログラムに取り組んでいる伊田さんに、具体的な事例を交えながらお話しいただきました。

**演題** 「DV加害者教育プログラムについて～被害者支援の視点から～」

**講師** い だ ひろゆき 伊田 広行 さん (DV加害者プログラム NOVO 運営者、立命館大学・大阪経済大学・愛知淑徳大学等 非常勤講師)

**NOVOの加害者防止プログラム**

加害者は相談をする場所がなく、ネットなどで間違った情報に接して、一人で怒りをためるケースが多く見られます。生い立ちを見れば、加害者には虐待を受けて育ったなどの被害者性がありますが、だからと言って許せるわけではありません。どう償っていくかが大切です。加害者プログラムを始めるため、2014年大阪で「NOVO」を開設しました。まず個人面談で加害者から気持ちを聞きます。自分の言い分を聞いてもらえて泣く人もいます。DVの基本を伝えた上で、グループに参加してもらい、1年以上の学びが始まります。非暴力的な会話を繰り返し練習することで、ゆがんだ考えに気づき、感情が変わっていきます。先輩の話は生活に根差した実践的なもので、新たな参加者にとっては説得力があり、集団の力を感じています。自分がしてしまったことの重大性に気づき、うつ状態になる人もいますが、自分が変われば、パートナーや子どもが戻ってくれるかという想いでがんばります。ただ、被害者には関係修復を強要できない、相手にも選択の自由があると伝えていきます。身体的暴力は2～3カ月で止まりますが、相手に与えた苦しみを理解して謝罪できるまでには相当の時間がかかります。

**被害者の特徴と様々なニーズ**

経済的に離婚しない方がいいと思う被害者は多く、加害者に反省して変わってほしいというニーズが高いです。PTSDなどで感情がコントロールできない場合は、冷静になるまで待つ必要があります。被害者のニーズを尊重

した中長期的支援が必要です。支配されているとき「ノー」が言えず、嫌なことをされてもニコニコしている被害者も「嫌！怖い！DV！」とすることで状況が変わります。安全に生きるための行動は当然の権利。言っても安全なら「今度暴力をふるったら警察へ通報する！」と予告した上で逃げるのが有効です。毅然とした態度が、加害者に「本気で変わらないとパートナーを失う」と思わせ、DVを本気で見直さないとという意識をもたらします。

**DVの現状と課題**

DV相談は昨年の後半から1.5倍に増えています。ステイホームで緊張関係が高まったことが原因のひとつかもしれません。これまでの被害者支援の基本は『相談と分離』でした。怖い存在として加害者には接触しないことを原則としてきたため、加害者対策が不十分です。加害者はモンスターばかりではなく多様です。話が通じる人も多く、変わる可能性があります。加害者の考え方を変えることが再発防止になり、被害者を守ることにつながります。プログラムを加害者に受けさせることで、被害者に考える時間的余裕が生まれ、落ち着いて様々な決断ができる余地が生まれます。被害者支援の観点から、加害者への相談体制の整備と加害者更生プログラムの拡充、受講の義務化が求められています。性被害防止教育については、2023年に全国の学校で義務化の見込みです。また、児童虐待の背景にもDVがあるため、早い段階で家族に介入し相談に乗れるワンストップセンターを作る必要があると考えます。

**ウィズカレッジ企画講座を終えて**

**●ウェブ配信の試み**

今年度は新型コロナウイルス感染拡大の中、ウィズセンターが行っている様々な普及啓発事業についても、安全に配慮した形で実施する必要が生じました。そのため、ウィズカレッジ企画講座については、従来の会場に直接足を運んでいただく形に加えて、ウェブ配信による観覧を新たに設けることとしました。

ウェブの場合は時間に制約がなく、また安心して受講できますが、内容については、じっと見ても飽きがないような工夫が必要と考え、トークショーや質問コーナーを取り入れた組み立てとしました。

会場での感染予防対策やウェブ配信等、試行錯誤しながらの実施ではありましたが、新たな形での情報発信ができたことにより、今後の普及啓発の幅を広げる足掛かりになったと、手応えを感じています。





## 長年のご愛読ありがとうございました。 ウィズセンター情報誌「With」の休止について

岡山県男女共同参画推進センター  
所長 大平 秀子



コロナに始まり、コロナで終わった一年間。年度早々から緊急事態宣言が発せられ、ウィズセンターも情報コーナーを閉鎖しました。特別定額給付金の申請が始まるとDV被害者支援のためGW中も相談窓口を開け、DV証明の発行を行いました。

「新しい生活様式」の中、講座等は、三密を避け、危機感を持って開催し、ウェブ配信するなど工夫してひとりでも多くの県民の皆様にも男女共同参画を推進できるよう進めてきました。しかしながら、年2回の情報誌「With」の発行は、1回となり、令和3年度は、残念ながら休止せざるを得なくなりました。

情報誌「With」は、多くの方々に支えられながら、Vol.77まで男女共同参画、DV防止等の多くの情報を発信してきましたが、来年度からは、ウィズセンターのホームページ、facebook\*、メールマガジン\*等を活用し、情報発信します。もちろん紙ベースでの「かわら版」スタイルの発信も考えています。形は変わりますが、より充実した情報発信に努めてまいりますので、引き続きご支援ご協力をお願いいたします。

さて、令和2年4月に着任後、ふとウィズセンターの入口に立ち、入りにくさを感じました。そこで情報コーナーの風通しをよくしようと断捨離を宣言し、職員に呼びかけましたが遅々として進まず、思い悩む日々が続きました。そのような中、情報溢れる環境に置かれ、読書と無縁だった私が、情報コーナーの図書を借り、夜な夜な男女共同参画に関するものから最新の文芸書まで様々なものを読みました。また、多くの方と出会う機会を得、貴重な助言をいただきました。

今、自分の置かれた身を「どうして」と嘆くのではなく「どうしたら」と前に進む。「なでし子物語」(伊吹有喜著)での言葉です。また、昨年11月に「改善する組織になろう」と題した職場研修で、ウィズセンターの一角で週2日、岡山県女性創業サポートセンターの相談員をされている村上紀子さんから「誰のため?」「何のため?」とウィズセンターのあるべき姿を考えるヒントをいただきました。

これらの言葉を支えとし、自信を持って改善を進め、まだまだ途中ですが、風通しのよい、利用しやすい情報コーナーになりつつあります。ぜひ一度来所いただき感想をお聞かせください。

意識は変われど思うように進まない男女共同参画社会の実現ですが、ウィズセンターは、「どうして変わらないの」ではなく、「どうしたら変わるの」と前向きに、「県民の皆様のため」「男女がともに輝く岡山県にするため」日々努力してまいります。

今後ともよろしく願いいたします。

### ※登録をお願いします

- facebook…………… 新着図書やイベントなど、旬な情報をいち早く随時発信  
ウィズセンターホームページのfacebook  
バナーをクリック
- メールマガジン… 講演会や映画鑑賞会などのより詳細な情報を定期的に発信  
登録方法：件名を「メルマガ希望」として、  
本文に氏名を明記の上、電子メール  
で送信

申込先：danjo@pref.okayama.lg.jp

詳細は裏表紙QRコードから、ホームページをご覧ください。



新しく廊下側に設置した一人席の閲覧コーナーです。

# お気軽にご利用ください！

## 図書・DVDの貸出し

小説、エッセイ、生き方、教育、働き方、DV、防災など男女共同参画に関する様々なジャンルの図書、雑誌、ビデオ、DVDの貸し出しを行っています。新聞の閲覧や「視聴覚コーナー」で所蔵のDVDとビデオ鑑賞もできます。

## 会議室・サロン

会議室：要事前予約（有料）  
学校形式で定員50名

サロン：事前予約可（無料）  
少人数での打ち合わせやグループ交流など

## 出前講座・来所講座

随時承ります。

対象：県内の各団体（地域コミュニティ、老人会、PTAなど）や学校、職場などで男女共同参画、DV防止などを学習したい方

※無料

## 情報誌「With」バックナンバー

ウィズセンターホームページの「情報誌バックナンバー一覧」でご覧いただけます。

WEBアクセス ホームページ <https://www.pref.okayama.jp/>

岡山県トップページ

- ▷ 組織で探す
- ▷ 県民生活部
- ▷ 男女共同参画推進センター（ウィズセンター）



ウィズセンター

検索

ホームページ

フェイスブック

詳しくは、ウィズセンターホームページをご覧ください。

## 一般相談

ウィズセンターは、配偶者暴力相談支援センターとしての機能を有しており、女性相談員が、広く様々な相談をお受けします。

生き方について、家族や夫婦のこと、健康のこと、DV被害についてなど、どうしたらいいのかわからないとき、あなたの不安や迷いに寄り添い、あなたの気持ちをいちばんに、ともに考え、解決の道をさぐります。ひとりで悩まず、まずは、お電話ください。面接のご予約もできます。

**086-235-3310**（相談専用電話）

相談受付日時：火曜日から土曜日（祝日・年末年始を除く）9時30分から16時30分

## 男性電話相談

男性相談員が男性のための相談をお受けします。

**086-221-1270**（男性相談電話）

毎月第2金曜日 17時から20時

## 特別相談（予約制）

弁護士による法律相談……原則第2・4金曜日

医師によるこころの相談……原則第4火曜日

**086-235-3310**（要予約）



ウィズセンターは  
**土・日曜日**も開館しています。  
お気軽に、お越しください。

開館時間 火～土曜日／9:30～18:00 休館日 月曜日・祝日・年末年始  
日曜日／9:30～17:00

ウィズ 77号  
2021年3月発行

編集・発行

岡山県男女共同参画推進センター  
（ウィズセンター）

〒700-0807 岡山市北区南方2-13-1  
きらめきプラザ（県総合福祉・ボランティア・NPO会館）6階  
TEL 086-235-3307 FAX 086-235-3306  
Eメール danjo@pref.okayama.lg.jp



古紙配合率100%再生紙を使用しています



ウィズセンターへお越しの際は、なるべく公共交通機関をご利用ください。